

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 代表研究者 北野宏明博士 共同研究論文

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構（OIST）オープンバイオロジーユニットの代表研究者である北野宏明博士が、平成17年に国内外のおよそ30の研究機関(*)に呼びかけて立ち上げたシステム生物学のプロジェクトの研究結果が、英国の科学誌 *Nature Biotechnology*（ネイチャーバイオテクノロジー）2009年8月号に掲載されました。

同論文は、生物学的ネットワークのグラフィカルな表現言語の国際標準（SBGN: Systems Biology Graphical Notation）の開発に関するもので、2008年1月には、同プロジェクトの参加者がOISTのシーサイドハウスに一堂に会し、ワークショップを開催しました。ワークショップはこの新たな国際標準を世に送り出すのに欠かせない大切な議論の場を提供しました。

- システム・バイオロジー研究機構、OIST、慶應義塾大学、理化学研究所の4者による [プレスリリース](#)（2009年8月7日）
- [論文の概要](#)



2008年1月28～2月2日にかけてOISTシーサイドハウスで開催された
SBGNスーパーハッカソンワークショップの様子

* システム・バイオロジー研究機構、ソニーコンピュータサイエンス研究所、沖縄科学技術研究基盤整備機構、理化学研究所、慶應義塾大学、欧州バイオインフォマティクス研究所（英国）、カリフォルニア工科大学（米国）、スタンフォード研究所（米国）、エジンバラ大学（英国）、ハレ大学（独国）、メモリアル・スローン・ケタリング癌センター・コンピューターショナル・バイオロジーセンター（米国）、ハートフォードシャー大学（英国）、マンチェスター大学（英国）、ハイデルベルグ大学（独国）などを含むおよそ30の研究機関